

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月27日

協議会名： 御坊市地域公共交通活性化再生協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
熊野御坊南海バス株式会社	日高川線1 御坊南海バス前～川原河(高津尾経由)	・市内小学校向けに、校外活動で路線バスを利用いただけるように周知している。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	・現在準備中の市民教養講座を活用して地域住民に対し情報発信や利用啓発を行うとともに、運行経路やダイヤを継続的に見直し、利便性の向上と利用促進を図る。
	日高川線2 御坊駅～川原河(高津尾経由)	・県立高校の新入生に対して公共交通の利用を促すため、通学時間に合った時刻表を作成して配布した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	・引き続き小学校向けに校外活動での路線バスの利用を促すとともに、県立高校の新入生に対して通学時間に合った時刻表を配布する。
	日裏線 御坊南海バス前～川又観音口(崎の原経由)	・市民に対して路線バスの利用を促すため、市が実施している市民教養講座のメニューに、新たに公共交通の利用に関する講座を加えるための準備を進めている。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	・御坊市地域公共交通活性化再生協議会に参画する主体間の連携による利用促進の取り組みについても協議を進める。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月27日

協議会名:	御坊市地域公共交通活性化再生協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	御坊市は、日高地方の中心都市としての役割を担っており、学校、総合病院、大規模な商店等の日高郡の日常生活機能が集約していることから、県内の市の中でも昼夜間人口比率が最も高く、乗合バスによる公共交通網は、周辺町から市内に向かう形で運行されている。 このことから、日高郡での乗合バスの利用者の傾向においても通学や通院等に利用されている方が多く、車を運転できない学生や高齢者等を中心に生活に必要不可欠な交通として機能している。 しかしながら自家用車の普及や人口減少、新型コロナウイルス感染症による乗客の減少等により、運行に様々な問題が発生している。 今回、フィーダー系統確保維持に基づき申請する日高川線及び日裏線においても、上記の理由から地域公共交通確保維持事業により各路線の確保・維持することで、住民の生活手段を存続させていくことが必要である。